

捨て犬・被災犬が、セラピードッグとしていきいきと活躍しています。



ごあいさつ 〈動物愛護に向けて〉



私が、捨て犬から第一号セラピードッグとなった名犬チロリと出会った当時は65万頭にも上る捨て犬・捨て猫たちが殺処分という残酷な運命の犠牲となっていました。

日本では、1973年に動物虐待の廃止を柱とした動物愛護法が成立。その後1999年、2005年、2013年と改正を重ね、その度に生命尊重の重要性が謳われてきました。

しかし、ペット産業の陰で、非情な乱殖から多くの犬や猫たちが飼育を放棄され、ガス室で殺処分されるという現実が繰り返されていたのです。この事実をなんとかしたい。私たちは法改正に向けて政治や行政にも働きかけを行い、長きに渡り活動してきました。

小さな命を救えない国が、人など救うことはできない。その信念に私たちの長い戦いは今、殺処分10万頭というところまでたどり着きました。あと一歩、もう少しでこの国から忌まわしい現実をゼロにすることが

できます。2020年、東京オリンピックで世界中の人々を迎える時、この国が真の動物愛護国として胸を張ってられるように。私たちはこれからも、全国の愛犬家・愛猫家のみなさんから届くたくさんの方のメールと共に、その歩みを続けていきます。

命あるものは幸せになる権利がある。——名犬チロリが残した熱い思いを胸に。

一般財団法人 国際セラピードッグ協会／一般社団法人 大木動物愛護協会 創始者・代表 **大木 トオル**
Founder & Chairman TORU OKI

【大木トオル代表 プロフィール】 音楽家。一般財団法人 国際セラピードッグ協会 代表。一般社団法人 大木動物愛護協会代表。弘前学院大学客員教授。ユナイテッドセラピージャパンINC代表、社会福祉学者（日米）東日本被災犬保護プラザ代表 東京日本橋人形町生まれ。1976年渡米、米国在住。全米音楽界で唯一、東洋人ブルースシンガーとして全米ツアーを成功させるなど、人種の壁を乗り越えて世界的に活躍する。ゼネラルプロデューサーとしても多くのビッグアーティストを育て、日米のブラックミュージックの架け橋として長く活躍「ミスターイエローブルース」と称賛される。一方、動物愛護家として日米の友好・親善に貢献。捨て犬たちと被災犬たちの救助と共にセラピードッグ育成のパイオニアとして動物介在療法の教育・普及を38年にわたり行っている。障がい者施設、高齢者施設、病院、教育の現場などで活動し、日米の各施設で多くの症例と成果を出している。セラピードッグ教育訓練カリキュラムの考案者として活動中。

Save the Last Lives

～ 命をつなぐ ～

殺処分ゼロを目指して



一般財団法人 国際セラピードッグ協会® 一般社団法人 大木動物愛護協会®
INTERNATIONAL THERAPY DOG ASSOCIATION OKI AWA : OKI ANIMAL WELFARE ASSOCIATION

〒104-0061 東京都中央区銀座8-11-13 エリザベスビル4F TEL:03-5537-2815 FAX:03-5537-2817
Email:info@therapydog-a.org ホームページ:http://www.therapydog-a.org/

Can you
Look
the other way?



殺処分された犬たちの残された首輪

見過ごせますか？

全国の動物愛護センターや保健所では、多くの捨て犬・捨て猫たちが、そして東日本大震災の被災犬たちが、殺処分されています。その数は、全国で年間 10 万頭以上。この現実から目をそらさないでください。



ガス室に送り込まれた犬たち PHOTO BY 大石成通

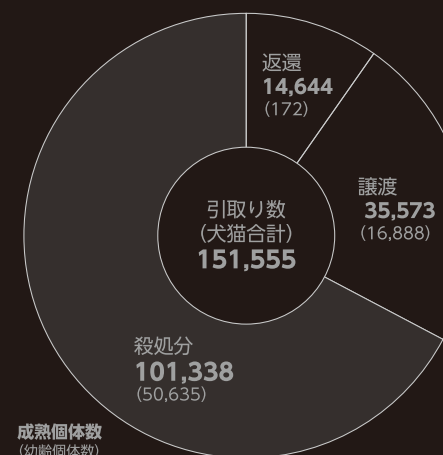


オペレーション室
ここでガス室のボタンが押される



殺処分された捨て犬たち PHOTO BY 大石成通

平成26年度 犬・猫引取り後の処分数の内訳



成熟個体数
(幼齢個体数)

平成26年度現在も、
捨て犬・捨て猫たちが
151,555頭います。

出典：環境省ホームページ (https://www.env.go.jp/nature/dobutsu/aigo/2_data/statistics/dog-cat.html)



山積みになされた粉骨



償却された捨て犬・捨て猫たちの
最後の姿 (粉骨)

Saved in the
nick of time



愛情を忘れかけた犬たちに、
もう一度命のぬくもりを

救う。

ガス室のモニター越しに、その瞳は私たちをじっと見つめています。
そこにいるのは、命です。
私たちと何も変わらない、一つひとつの大切な存在。
彼らには、もう時間がありません。
私たちには、できることがあります。



各地の収容所の犬たち。数日後にはガス室へ



多くの犬達が救いを求めています



「なんとか間に合った!」心から安堵する瞬間



抱えきれない程の命の大切さと熱い決意を胸に

タイムリミットがある命。
殺処分対象の犬たちを保護しています。

ペットブームの裏側で、ビジネス優先の非情な乱殖や無責任な飼い主の存在が生む「殺処分」という悲しい現実。国際セラピードッグ協会では、各地の保健所や動物愛護センターから殺処分の対象となった犬たちを救助する活動を続けています。「殺処分ゼロ」は夢などではありません。私たちが、かならず実現しなければならない使命だと考えています。

To **protect** ---



被災

救出そしてスクリーニング後、健康回復させます

守る。

2011年3月11日。日本中が恐怖と失望に包まれたあの日。
多くの家族を失ったのは、私たち人間だけではありませんでした。
悲しいとも、辛いとも、声をあげることすらできなかったたくさんの動物たち。
その存在を、忘れてはいけません。
安心して共に暮らせる毎日を目指して、私たちは歩き続けます。

福島の被災犬たちの新しいスタートのために。

東日本大震災で飼い主を失った福島の被災犬の保護も、私たちの大切な活動のひとつです。たくさんの被災犬たちが、セラピードッグとして立派に成長し、心や身体が弱った人を支える強い力となっています。



原発 20km 圏 被災犬の救出 (福島県川内村)

■ 福島の被災犬の救助

「金次・銀次」
のケース



ガス室からの緊急救助



除染作業

「福」
のケース



野犬として生まれ、救助された直後



健康回復した現在

福島・いわき被災犬緊急保護センターの運営を引き継ぎました!

被災犬を受け入れていた福島・いわき市ペット緊急保護センター。震災から時が経ち、これまで通りの運営ができなくなってきた行政より引き継ぎました。国際セラピードッグ協会は、地元愛護団体などからの熱い声を受け、センターの運営を決意しました。すべての被災犬たちが、未来に向けてその一歩を踏み出せるまで——私たちはこれからも、彼らを守る活動を続けます。



国際セラピードッグ協会
福島・いわき被災犬
緊急保護センター

私たちの活動に、大きな注目が集まっています。

被災犬セラピー活用
福島の4匹「飼い主」痛み知る



被災犬セラピーの活用が、被災者にとってどのような効果をもたらしているのか。被災犬セラピーの活用が、被災者にとってどのような効果をもたらしているのか。被災犬セラピーの活用が、被災者にとってどのような効果をもたらしているのか。

朝日新聞
2011年 12月24日 土曜日

セラピードッグで里帰り
被災し飼い主とはぐれ



被災し飼い主とはぐれたセラピードッグが、里帰りした。被災し飼い主とはぐれたセラピードッグが、里帰りした。被災し飼い主とはぐれたセラピードッグが、里帰りした。

朝日新聞
2011年 5月28日 月曜日

読売新聞 THE YOMEI SHIMBUN 5.28.11

被災地の犬 再出発



被災地の犬が再出発する様子。被災地の犬が再出発する様子。被災地の犬が再出発する様子。

福島民報 2012年(平成24年)7月19日(木曜日)

被災犬で心のケアを
国際セラピードッグ協会 大木代表に聞く

本県の約100匹を保護、育成



人の心身のケアをするセラピードッグ(治療犬)を育成して三十五年余り、本県の被災犬、約百匹を保護し、セラピードッグに育てようという「日本被災犬保護センター」を、九月にも東京都内に開設する国際セラピードッグ協会代表の大木トオルさん(57)に聞いた。

2011年(平成23年)5月2日(木曜日)

日本経済新聞

被災犬で動物介在療法



被災犬で動物介在療法が行われている様子。被災犬で動物介在療法が行われている様子。被災犬で動物介在療法が行われている様子。

日本経済新聞
2月2日(木曜日)

生きてくっちえ 本当 ありがとうなあ



震災で家族を失った被災犬がセラピードッグの訓練を積んで、故郷・福島に帰りました。生きてくっちえ 本当 ありがとうなあ

2012年(平成24年)7月21日(土曜日)

被災犬を心身ケア

保護センターは使命



被災犬を心身ケアする保護センターの使命。被災犬を心身ケアする保護センターの使命。被災犬を心身ケアする保護センターの使命。

And
Live together.



福島仮設住宅に住む高齢者とセラピードッグになった被災犬「日の丸」

共に生きる。

その目に見つめられるだけで、気持ちが動きます。
笑顔になります。勇気が湧いてきます。
言葉が通じないからこそ、心でつながっている。
その確かな実績が医学的にも認められるセラピードッグたち。
救出された被災犬は新しい使命を得て、
誇らしげに胸を張っています。

命を救う犬になる。 セラピードッグとして新しい犬生を。

医療や介護の現場で患者や高齢者に寄り添い、心身の回復を補助するセラピードッグ。アメリカでは60年以上の歴史があり、精神の安定、脳梗塞の後遺症や認知症の改善促進など、癒してはく治療の一環として大きな成果を上げています。国際セラピードッグ協会では、保護した犬たちを約2年半かけて立派なセラピードッグへと育成。全国の高齢者・障がい者など約12,000名以上の人たちをケアしています。社会福祉に貢献することにより、人と犬が共生できる社会を目指しています。

大きな障害を持つ高齢者、言葉、会話そして笑顔と手の動きなど、リハビリによる多くのリカバリーを成し得ました。



要介護5の方々へのセラピー活動。記憶の回復、言葉の回復、認知症の進行緩和など、多くの症例を出しています。



救出された被災犬たちはセラピードッグとして福島へ里帰りし、仮設にて長期的に活動を行っています



全国教育機関への動物愛護講演会



災害や厳しい状況乗り越えて捨て犬・被災犬たちはセラピードッグとして生まれ変わります



東京大学医学部附属病院やがん研有明病院など全国の医療機関ではセラピードッグ(動物介在療法)のセミナーを行っています